

中心地域整備に関する調査特別委員会（第12回）

日 時 平成28年12月9日（金）

9：00～10：02

場 所 議会棟 第2会議室

出席者 委員長、副委員長、委員9名（欠席：なし）（傍聴者：なし）
説明員 中村副町長、木下企画課長、青葉農林課長、浅田専門監、実延参事
書 記 川上主任、岩崎事務局長

○山本委員長 皆さんおはようございます。ただいまより、中心地域整備に関する調査特別委員会を行います。本日は、調査協議事項と致しまして、道の駅におけるEVI実績について、議会報告会、意見交換会にかかる検討課題の整理について予定をしておりますので宜しくお願いを致します。最初をお願いをしておきますが、発言をされる際にはマイクを持って発言をしていただくように再度お願いをしたいと思います。そうしますと、執行部より説明をお願い致します。中村副町長。

○中村副町長 改めまして、おはようございます。本日は中心地域整備に関する調査特別委員会という事で報告をさせていただきたいと思っておりますが、11月の集計が大体終わっておりますので、本日はそういう累計と言いましょうか、4月のオープン時からの累計も含めた形の中で説明させていただきたいと思っております。昨日の経営者会議も定期的に月1回最近はやっております、そういったところの中でいろいろお話をさせてもらっているところでありまして、特に11月についてはラジオの中継をしていただいたりとか、或は道の駅関連の関係ですが、広島の方のテレビ局が取材に来て放映されたという事で、それを見られた方が来場して来られたというようなお話も昨日は聞いたところでもありますので、若干ですが岡山とか広島方面にも周知が出来ていると思っておりますので引き続きその辺の情報提供といいましょうか、広報という事を中心にこれからも進めていきたいと思っております。またご承知の通り今日は町長の方が上京しております、農林水産大臣の表彰を受けるというところがありますので、当然道の駅関連でもありますので、そういった表彰のことも含めてこれからPRもしていきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いをしたいと思います。説明の方は担当の方からしますので宜しくお願いを致します。

○山本委員長　　そうしますと、浅田専門監。

○浅田専門監　　タブレットの2ページ目から、道の駅の資料の方提出させていただいておりますのでご覧いただきながら説明したいと思います。初めに道の駅にちなんで日野川の郷の10月と11月のイベントの写真を付けさせていただいておりますが、10月23日には昭和の名車チャリティーミーティングという事で、この日は食のバザールやふる里まつりもあったわけでございますけれども、このチャリティーミーティングにも約2,000名の方にお越しいただいております。雨模様ではございましたけれども、たくさんの方に来ていただきまして楽しんでいただいたという事です。ふる里まつりも皆さんもご承知かもしれませんが、22日には約1,500人、23日には約1,600人ということで3,100人の2日間で来場いただいております。この時にはこの道の駅から電気自動車を使いましてシャトルバスを運行しまして、両方の会場を行き来しながら皆さんに両方を楽しんでもらうというようなこともやっております。チャリティーミーティングということで、交通安全対策協議会の方にもこの収益金の方は寄付いただいておりますというようにも取り組みをさせていただいております。右の写真は先般11月27日に第26回の食のバザールを行った風景を付けております。この日もちょっと雨模様ではございましたけれども約1,000の方に来ていただきまして、25店舗の出店がありましてぜんざいを振る舞ったりということも取り組みながら、沢山の人の楽しんでいただいたというイベントもこの道の駅の方で開催しております。次のページの3ページ目になりますけれども、先程副町長からもありましたけれども、道の駅の売上客数やEVIもちょっと数字的なものを羅列しておりますけれども、直売所につきましては累計で一番上の右上になりますけれども、これまで11月まで売り上げ61,444,063円というような売上も出ております。その中には米の外部販売ということで、これまでいろんな事業者の方に直接米を販売したりというようなことも6月から出ておりましたり、それからふるさと納税というものも出ておりましたり、米の販売につきましては300万弱、それからふるさと納税につきましては150万あまりの今販売がありましたということをご報告させていただきたいと思います。それからあとレストラン、トマト加工等も付けておりますが、この後グラフ等でわかりやすくしておりますのでその辺でまたご説明をさせていただきたいと思います。またEVIにつきましてもこの後詳しい資料も付けておりますのでそちらをご覧いただきたいと思います。この表の下には道の駅の施設加工実習室であるとか、多目的ルーム軒先の利用という

ような利用実績等も付けておりますので併せてご覧いただきたいと思ひます。続きましてタブレットの4ページ目になります。グラフにしてわかりやすく先程の表をしたものでございますけれども、直売所レストラン、トマト加工の売上、それからレジ通過者の推移というものをあげさせていただいております。折れ線グラフになっておりますものがレジ通過者ということでございます。それから下の棒グラフの青い部分が直売所、赤い部分がレストラン、それからグレーの部分がトマト加工ということでご覧いただきたいと思ひます。これまでもずっとあげておりましたけれども、最初のオープン時の沢山来ていただいたところから若干減っておりますけれども、ある程度安定した数字で皆様にご利用いただいております。8月は夏休み行楽シーズン、それから帰省客ということで多かつたわけでございますが、その反動といひますか9月は若干落ち込みましたけれども、また10月11月ということで若干またそこで上向いておるということをご報告させていただきたいと思ひます。続きまして5ページ目になります。これが道の駅でのEVIの実績ということで付けさせていただいております。この黄色い部分というものが、MAサービスさんが預かつたもののEVIの数字ということで、左から直売所の①が直売所でのEVIいわゆる1品1円の部分でございます。それから次の②のところのレストランでのEVI、1品1円の部分でございます。これは1人1円ですね、レジ通過者1名につき1円ということでいただいております部分、それからイベント施設利用分というものが、軒先とかで外部からの出店者の方が販売された分の1品1円という事。それを合計したものが④のところになります18,390円というもの。これをt換算いわゆる8,000円で割戻しますと約2.3tのカーボンオフセットがなされておるといふことになります。続きまして、緑部分のところ、これがトマト加工さんの所で預かつておられる分です。これも1品1円ということで2,035円ということで、これをt換算すると0.3tといふことになります。オレンジ部分のものが両方の黄色と緑を足したもの、それがオレンジ部分になります。預かつた合計が20,425円といふことで、2.6tのものが4月分は預かせていただいたといふふうにご覧いただけたらと思ひます。累計が一番下に付いていふこの数字になりますので、これがこれまで道の駅オープン以来のカーボンオフセットの該当する数字といふことでご覧いただきたいと思ひます。次にタブレット6ページ目になります。これが森林支援協力金といふことで道の駅に掲示させていただいております。これが表になります。実はこの数字トマト加工の数字をこの時はまだ入れておりませんでした。道の駅の先程言ひました、

黄色い部分と緑の部分その数字をずっとあげておりまして、これをご報告させていただいておりましたけれども、この度からタブレット7ページ目になりますけれども、森林支援の協力金ということでトマト加工も含めた数字を今後掲示していきたいと考えております。簡単ですが以上で説明を終わります。

○山本委員長　ただいま説明をしていただきましたが、質問ご意見ございますでしょうか。大西委員。

○大西委員　4月から8月までの表を持ってきたんですけども、この時にはトマト加工 EVI は入っておりますけれども。今入っていないと言われましたけれども。

○山本委員長　浅田専門監。

○浅田専門監　道の駅で掲示するときに掲示場所が道の駅の直売所の前に掲示していたものですから、トマト加工を含まない数字を掲示させていただいておりました。但し、来ていただくお客さん道の駅全体の数字をやはり皆様にお示ししなくてはいけないということで、今後はこのトマト加工も含んだ数字の表示を今後させていただきたいという事でご理解いただきたいと思います。

○山本委員長　よろしいでしょうか。大西委員。

○大西委員　実は林業まつりのときに配られた資料がございます。これと同じ内容は道の駅のレストラン入口のところに掲示してあります。A3サイズで。それは一致しているのですか。以前貰ったやつと数字を合せていくと、ちょっと合わなかったもので。これは今言ってもいけないので、また計算をもう一回し直しますけれども。このときもトマト加工は入っておるんですね。これはあくまで8月まででしたけれども。

○山本委員長　浅田専門監。

○浅田専門監　委員の皆さまに提示させていただいたのは、トマト加工も含んだ数字を皆様にはご提示させていただいたんですが、表示の部分ではトマト加工が入らない部分で道の駅の直売所の前に表示させていただいておりましたので、それで若干皆さまへの数字と差違があったかなと思っております。

○山本委員長　大西委員。

○大西委員　この EVI カーボンオフセット協力金はどこが、実際に現金はどこが管理しておるんですか。

○山本委員長　浅田専門監。

○浅田専門監　タブレットで先程説明しました、色分けした黄色い部分、緑の部分、

オレンジの部分という事でタブレット5ページ目になりますけれども、この黄色い部分につきましてはMA サービスが預かっておりますので、その部分をまたこちらで請求させていただきますし、緑の部分はトマト加工さんが預かっておられますので、この黄色い部分でいいますと4番目の数字168,578円というものを預かっておられますのでその部分を町から請求させていただくという事になります。これはMAさんが預かっておられますので、その分をまた町の方で請求させていただくという事になります。

○山本委員長 大西委員。

○大西委員 3月までで累計をすべて集めて、3月にその後のお金のやり取りはどのようになるんですか。例えば20何万たまりますね。そのお金はどのような動きになるんですか。

○山本委員長 浅田専門監。

○浅田専門監 私共が預かったお金というものをEVIの推進協議会というのがありますので、そちらの方に納入しましてそこがまとめて日南町のカーボンオフセットということで、何tになるか、20tならいくらになるという事でそのtを買っていただくと、そちらから買っていただくという形になります。

○山本委員長 大西委員。

○大西委員 という事は累積で23tくらいになっていますので、想定では40tくらいになるであろうということですね。その関連でちょっとよろしいでしょうか。実は、林業まつりの資料のところには皆さん全員持っておられませんが、信頼性を確保するためカーボンオフセットプロバイダーであるウエスト何とかの会社に、排出量算定をしていただいたら年間150tの見込みだと、道の駅が。当初6月議会の的に質問した時は300tという説明がございました。倍半違うんですね。なぜなのか。まずそこお聞きしたいです。

○山本委員長 浅田専門監。

○浅田専門監 当初オープンの際には、電気の使用料等の算定をする中で道の駅のMAXの使用料、いわゆる電気をどれくらい使うかわかりませんが、道の駅にある電気機器のどれくらい消費電力があるかということもかなり多めにしておりました。というのはどれくらい使用するのかわかりませんので。稼働時間等は考慮させていただきましたけれども、その稼働数量とかいうことが実績で電気使用料が実際出

てきた部分が、半分程度になったということでご理解いただきたいと思います。

○山本委員長 大西委員。

○大西委員 実績は確かに300t、その時の計算式があると思うんですね。計算式は。その計算式に該当する計算、電気だとかガスとかあると思うんですけども、何項目に渡っての計算をされましたか。電気ガスという区分から言いますと。

○山本委員長 浅田専門監。

○浅田専門監 また資料の方を計算式も含めて出したいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

○山本委員長 大西委員。

○大西委員 先程の説明であると電気料が想定してある半分ぐらいだからなったということであれば、なぜその会社にあえて信頼性の高い会社という表現ですけれども。計算する係数が同じであれば、実績に対して掛け算するだけでできるわけですね。なぜ信頼性があるんです。どこのために頼まれたんですか。

○山本委員長 浅田専門監。

○浅田専門監 やはりどこまで詳しいといいますか、単純に何 kw でいくらとかければいいのかと思っていましたけれども、これまでに計算してきたところそういった専門会社の方にきちんと計算して出していきたい。いわゆる信憑性の高い数字、私共がきちんといくら使っていくらカーボンオフセットするかというところの部分を手前で計算するのではなくて、第三者にきちんと計算していただいて、その上で私共も皆さんに公表する数字というもの出したいと思っておりましたので、そういったところに計算をしていただいたというところでございます。

○山本委員長 大西委員。

○大西委員 住民課の方でそういった計算はプロがずっとおるわけですね。住民課で。環境の中でCO2何t、役場何t、文化センター何t、病院何tという計算をされとるわけですね。それで信頼性がないというと、全て住民課が作っている資料は信頼性がなくなりますよ。

○山本委員長 浅田専門監。

○浅田専門監 言葉のあやでしたけれども、私ども道の駅の使用料、電気使用料とかガス・電気・水道・ガソリンも含めてそういったものが多項目あるわけですけれども、そういったところについてはやはりよそに頼んできちんとしたといいますか、説

明になりませんが、そういったところで計算したものを私共も皆様方に公表したいという思いの中から今回は外部の方をお願いしたということでございます。

○山本委員長　大西委員。

○大西委員　こればかり言ってもいけませんけども、一番肝心の基礎のところを話しとるわけです。環境家計簿はご存知ですか。環境家計簿には全て係数が書いてあるわけです。そこに何 kw 入れればちゃんと出てくるわけです。ただし電気の場合は電力会社の条件によって違いますので、ここは中電ですね、中電の係数必ず出てます。27年度はこれでやってください。26年度はこれで計算しなさい。今年是这样です。全て出ています。それは原子力の関係もありますから、今原子力止まっていますので当然計算が変わりました。今どんどんどん C02を排出していますので率は高くなっています。電気だけで言いますとね。ガソリンとか軽油とか灯油とかいうのは基本的には一緒です。値段は違っても C02の排出量は一緒です。ガスであるとか水道、えっと思えますが水道もそうなんです。それからもう1つ生産活動ですから、可燃ごみ。可燃ごみも t 数何 t と全部出るわけなんです。どこまでの範囲で計算されているかその信憑性というのはどこでも見れるわけです。ホームページ見てもいいし、鳥取県の環境家計簿、住民課が町民の皆さんに環境家計簿作りませんかというのをホームページに入っています。日南町の皆さんにはアピールしています。それを見れば係数もわかりますので、今あえて外部の信頼できる会社といわれるということはちょっと私自身300t も唾然としたんですけど。今現在住民課がやっている地球温暖化防止計画、これをまずご存知でしょうか。防止計画、今年作られたところです。

○山本委員長　中村副町長。

○中村副町長　計画は承知しておりますが、今回の話につきましてはどちらがどうかということはあるかもしれませんが、一応そういうところの機関をお願いしたという経過でありますので、実際に出たものと住民課の方が持っている資料との突合もしながら正確的な数字かどうかという判断も含めてやっていきながら、今後の把握の数字の出し方については検討していきたいと思っておりますので、ご教授いただきましてありがとうございます。

○山本委員長　大西委員。

○大西委員　実は今年の6月7月に日南町として地球温暖化防止計画。2030年26%減という事で作られました。その中には町が管理する全ての施設が入っています。具

体的にいいますと、あかねの郷、道の駅も入っています。という事は、道の駅が300tにしていたものが150tになったらそのベースが違ってくるわけですね。計算は全部それだったら、文化センターから全て見直さないと大変なことになりますよ。そこだけ言っておきます。見直してください。

○山本委員長 中村副町長。

○中村副町長 その関連も含めて精査しながら数字の方を出していきながら、便宜を図っていきたいと思います。ご指摘いただきましてありがとうございます。

○山本委員長 福田委員。

○福田委員 今の資料を請求いたします。

○山本委員長 最初の300tの資料と今業者に頼まれた150tの資料の2つを請求ということでお願いします。

○福田委員 それで私思うのは、かねがね言うておるんですけど、道の駅ができてカーボンオフセットで農林水産大臣賞をもらったぐらいなので、日南町は。もっとしっかり勉強しておかないと笑われますよ。よそから行政視察で来て質問されて、道の駅に行ったら話が違つとるし、農林課、住民課でも違うという事ではダメだと思いますよ。せっかくここまでしたのなら、とことんまで勉強してもらわんと、これがマイナスマイナスになってくれば何にもならんよ。それを一つお願いしておきます。

○山本委員長 中村副町長。

○中村副町長 ご指摘の通りだと思っておりますので、その辺はきちんと整理精査していきたいと思いますので、またご報告をさせていただければと思います。

○山本委員長 その他ございますか。坪倉委員。

○坪倉委員 今は中心地域の特別委員会ですけれども、先程大西委員や福田副議長のような話があって、道の駅全町的なプロジェクトとして連携しながら取り組むと言いながら十分果たされていないというような感覚も受けたんですけども、議員個々の意見ではなくて他の委員会でも言えることなんですけれども、この委員会として委員長がしっかりと取りまとめていただいて、広く言えば議会としてこういうことにはちゃんと対処すべきだという意見の取りまとめをお願いしたいということが一つです。それと年間計画の達成率と言いましょか、入場者数、売り上げの進捗率はどれぐらいなんですか。

○山本委員長 浅田専門監。

○浅田専門監 直売所の売上、先程見ていただきましたが、タブレットの3ページ目になりますね。道の駅の集計売上等も出させていただいておりますけれども、直売所でいいますと6,100万今売り上げがありますけれども、目標としては9,800万を見込んでおりました。ですので、あと4ヶ月このままの推移500万600万でいくと大体約9,000万弱のものになると思いますけれども。今そのような数字で動いておりますので、これからももっと誘客を進めて売り上げの方のアップ、それからこれから冬に向かいますので生鮮野菜も少なくなってくるかもしれませんが、お土産物ですとか、それから今声が出ておりますけれど、手工芸の部分もう少し棚を広げて沢山売りたいという声も出ておりますので、そういった部分で売り上げの方を上げていきたいと。単価の高いもので売上を上げていきたいと思っております。

○山本委員長 レストランとトマト加工とかですか。浅田専門監。レストランにつきましては当初計画が3,600万の計画で現在進んで、今の数字は1,400万程度という数字が出ておりますが、どうでしょうか。当初計画道の駅全体では1億7,000万円ですか。全体売上としましては、当初直売所が9,800万、レストランの売上が2,700万、トマト加工が4,500万で。3,600万は直売所の売上、3つの試算が出てます。直売所の売り上げが5,200万という試算が一つ、もう一つは9,800万という試算が一つ、もう一個が1億5,600万円という試算が一つ。3つの試算がありまして現在お話をされておるのが9,800万円を目標としたプラスマイナスゼロくらいのところの試算に基づいたお話をされておると思っています。先程言いましたのは、3,600万は一番多いマックスの試算ですので真ん中で考えますと、2,700万円。浅田専門監。

○浅田専門監 今委員長さんの方から言われたように、目標数字レストランの場合が2,700万、それからトマト加工さんの場合は4,500万をあげております。レストランについては2,700万ということですので、ちょっとまだ目標の方には達成していませんけれども、トマト加工の方についてもですね4,500万というのは、これはトマト加工さん全体の数字をあげさせていただきました。また、会社の方から提供いただけたらその数字もいただきたいと思っておりますが、今回あげさせてもらっている数字というのがこの道の駅での直売所での販売額ということで目標との精査ということができませんけれども、またおってその数字等もいただけるものでしたら、トマト加工の全体の数字をまた皆様方の方にお示ししたいと思っております。来場者数につきましては、一応目標としまして30万人というものを一番最初の計画の方ではあげさせていただ

ていたと思いますけれども。今現在、来場者数の方がレジ通過者54,618人でこれに予てより申し上げておる係数2.3をかけますと約12万人の方に来ていただいております。最初の30万人というものは実は外の道の駅、外での物販、そういったものも含めた数字を実は計画だけはあげさせていただいておりますので、ここもちょっと計画数字の方も見直す必要があるのかもしれませんが、今回こちらできちんと数字を取れるのがレジ通過者ということで、レジ通過者と言いますと先程言いましたように12万人余りの方が今来場いただいておりますということでご理解いただきたいと思えます。

○山本委員長　よろしいでしょうか。久代副委員長。

○久代副委員長　冬の生鮮野菜も少なくなる中で、これから1月、2月、3月と迎えるわけだけども、今年度で言えば今の話でいうと前回の委員会では約目標の8割だという報告を受けています。大体基本的にそういうので推理すると、これまでも努力されているわけですがね目一杯。だから大体目標の8割だというふうに見通せるということですね。そのことを確認しておきたいと思えます。

○山本委員長　浅田専門監。

○浅田専門監　その通りでございます。これからちょっとまた冬場を迎えてどれだけお客さんの客足が鈍るかというところもありますので、8割というところで見込んでいただきたいと思えます。

○山本委員長　その他ございますか。古都委員。

○古都委員　来場者数30万の話ですけれども、中曽課長の時に過大数字だというお話を聞いて、30万いったら鳥取県の人口の半分も来るのかという質問をした経過があるんですけれども。今の話では後18万ぐらいで30万になるわけですからいいのかもわかりませんが、やはり当初計画で予算を通して事業をやると。その時には非常に綺麗な数字だけでも、やってみたら今8割という数字が出ましたけれども、部門によって違うのかもわかりませんが、違ふと。先程来も指摘があったように元数字というものの押え方が非常に綺麗すぎた。そこらへんを反省されるべきだと思いますし、それとそれは私の思いですが、もう一つはレストランの1財布から1円という考え方、以前にも申し上げましたが、バスで団体で来て幹事がまとめて払っても1円。それからそれぞれ家族で来て自分の財布から出したら、1品1円の考え方ですね。毎月検討会しておられますけれども、そういうところではどういう反響があったのか

教えていただきたいと思います。

○山本委員長 浅田専門監。

○浅田専門監 レストランでの品数1品1円ということで、予めよりやはり申し上げておるように1品1円、定食1つを1円にするのか、ここは一皿ずつ取るスタイルにしておりますので、また後で一皿小鉢を1つ追加しても1円ということになってしまいますので、やはりそこでの皆さん不公平感というか、皆さんどう思われるかですね。買われる方の意識ですけれども、そこはなかなかご理解いただけないんじゃないかということで、私共も1人1円という事でやらせていただいております。1レシート1円ですね。

○山本委員長 古都委員。

○古都委員 ですからバス2台で老人会でも女性会でも来られて幹事が40人分の支払いをしたと。これも1円。ですからその時もお話したように、例えば1トレイ1円とか、5品買われようが4品買われようが、1トレイで1円と。トレイに乗せたものをもっていくわけですね。提案は聞いたけれども検討はしないというスタンスですか。

○山本委員長 浅田専門監。

○浅田専門監 やはりこの話題はずっと提案いただいた度に経営者会議の方で話させていただくんですが、その辺はやはりテナントで入っていただいておりますということもありまして、なかなかその理解といいますか今のスタイルでもう少しやってみたいというような意見がやっぱり強くありますので、やはりその部分も尊重させてもらって今そのままのスタイルでやらせてもらっているという状況にあるという事でご理解いただきたいと思います。

○山本委員長 古都委員。

○古都委員 それは私も経営者会議に出ていませんけれども、そういう決断が半年もできんような会議をしてみたって余り意味がないじゃないですか。それは瞬間的に多分ほとんどの方はそういうことが詳しくないから収まっているだけで、それは他のこちらの分で100円のものを買っても1円払わないといけない。こっちで700円。今でいうとその20倍ならすごい金額でも1円なわけです。それの方が私は不公平。道の駅全体として考えた時には不公平だと。ですから、MAさんあたりに理解をとって全体が収まるような形の方がいいんじゃないかと思いますので、今お返事はいいですけれども、今度の経営者会議あたりでそういう声が多いということも言ってもらいたい。他の委員さん方はどう考えておられるかわかりませんが、おそらく皆さんもそ

ういうふうに捉えられるのではないかと。大多数の方が思いますが、次の経営者会議あたりでそこらへんをちょっと時間をかけて検討いただければなと思いますけれどもどうでしょうか。

○久代副委員長　　ちょっと意見があります。私は古都委員の一皿、何回かここで議論があったけれども、議会の全員一致の考え方で結論を出しているとは思いません。やっぱり1人客1円の方法はあるかなとは思いますが。1人客です。だからカーボンオフセットの考え方はやっぱりそういう事業に貢献するというので、レストランのやり方だから話が出てくるかもしれんけど、普通1人のお客さんに対して1円でやれば私はいいじゃないかなと思います。一皿ずつどうのこうのという話もありましたからね。そういう話もあったから意見として申し上げたいと思います。どういうふうに1品1円取るというやり方か、1人客に対して1円取るという、直売所との関係もあるけれどもある程度その辺は今後も整理していく必要があると思うし、今の段階ではレストランの経営者ともそういう話をされているので、もうちょっと状況を見ていく必要があるんじゃないかなと私は思いますけれどもね。

○山本委員長　　委員の中でもいろんな意見があるということでございます。坪倉委員。

○坪倉委員　　委員の中で色々あって、古都委員も含めて何回か議論をしていますけれども、やっぱりそれが個人の発言で終わってしまっているから、執行部側もそれなりの対応になっていると。やっぱり委員会としてまとめるべきだと思います。さっき久代副委員長が言われましたけれども。いきなりすぐという事にはならんのかもしれませんけれども、私としても1人1円の付加パターンがいいのかなと思います。1トレイという事もありますけれども、後で例えばコーヒーを追加で頼めばまたそれはトレイが別になりますので別になるというような事で。そういうことから考えると直売所との兼ね合いはありますけれども、レストランで飲食をされた方1人に対して1円という付加の方法はあるのかなと思います。

○山本委員長　　ありがとうございます。何度も何度も同じ様な話をしてもいけませんので、この委員会として結論を導けるように話を進めていきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。その他でございますでしょうか。福田委員。

○福田委員　　それで1円の件ですけどね、1円1円言うて細かい事言いますけれども、食のバザールでこの前ここで道の駅ではなしに役場の裏でやるときにね、1品1円取っ

た商店があります。ここはやっぱり食のバザールでも1品1円かな。そういう事でやっ
とるかな。

○山本委員長 浅田専門監。

○浅田専門監 食のバザールでも道の駅で出店の場合には1品1円。

○山本委員長 木下課長。

○木下企画課長 これまでもお話をさせていただいたこともありますが、EVI 商品
という事で独自に EVI 商品1円を付加した商品を作って従来から売ってらっしゃる店
舗もいらっしゃいますので、そういったお店は道の駅に限らず他で売られるときも寄
付金を募って売られる商品も一部にはございます。

○山本委員長 福田委員。

○福田委員 やっぱり統一しないとこの店に行ったら1円取られましたと、お客さ
ん知りませんよ、全然。ここへ行ったらなかったとか、そういうざっくばらんな事か
なこれは。それはおかしい。文化センター裏だったら取りませんか、道の駅は取り
ますとかいうのをはっきりせんと、取るだったら全部取るというように決めておかな
いとこれ問題が出ますよ。私は用事へ行って買ったならここは取られましたと。なんで
ここは取るのかと、道の駅じゃないんですよと言ったって1円払ったという。それは
おかしいじゃないかなと思って。お客さんに説明してもらいたいよ。

○山本委員長 木下課長。

○木下企画課長 EVI 商品を独自で売られている店舗さんにつきましては、EVI の
シールを張られたりして、これは寄付金付きの商品であるという事を分かるようにす
る必要があります。そうされて売っていらしゃると理解をしております。ただ、道
の駅の場合は施設全体でそれに取り組もうという事でやっておりますので、道の駅に
ついてはそこで売るものは必ず1円で店内にも表示をしております。ただ、道の駅以
外で売られるものについては、その商品が EVI 商品なのかどうかということは、売ら
れる方の判断ですので、それを理解をいただく表示もしながら売られるというのは、
各店舗さんの考え方という事でイベントでそれを縛るという事は今考えていないです。

○山本委員長 EVI に参加したお店というのは、具体的に教えていただく事は出来
ますか。EVI に参加するお店ですね。登録制度。浅田専門監。

○浅田専門監 三上さんのところのお米も EVI 商品でございますし、今松工務店さ
んの商品もそうですし、トマト加工もそうですし、きりん塾の製品もそうですね。木

下さんのやっておられるところも。

○山本委員長 要するに、町からCO2排出権を買ったところが、このEVIに参加したお店という事になるわけですか。浅田専門監。

○浅田専門監 これは直接EVIとのやりとりの中で、自分はその商品をどこで売ろうともその1円をもらうからその取り組みをしたいというところの会社ですので、ここに限らずよそで売るときもそれはEVIの商品だという事で1円いただいております。

○山本委員長 それは手上げで私がやりますよと言え、そのEVIのお店になれるという事ですか。

○浅田専門監 その通りでございます。

○福田委員 そのお金はどこに入ってくる。お金は。

○浅田専門監 直接そのEVIの推進協議会の方からシールを買う事でお金を支払う形にしておりますので、そういった商品には直接シールが貼ってあると思います。

○山本委員長 申し訳ございません。この今のEVIのお店に参加する手続きとかです、そういう流れを書いたような資料をいただけませんか。今、個別個別に聞いておってもなかなか整理が出来ませんので、これもまとめたものを資料で提出をしていただきたいと思いますのですが、いかがですか。中村副町長。

○中村副町長 ちょっと時間的にいる場合があるかもしれませんが、流れ的な概要の分かる資料は提供していきたいと思っておりますので宜しくお願いします。

○山本委員長 福田委員。

○福田委員 食のバザールと道の駅とでバラバラな事だったらきちんと説明するべきじゃないかな、お客さんに対して。お客さんは分からんから、例えば500円買ったから1円入りますよと、501円出しましたと。お客さんこれに納得しなかったら払わなくてもいいでしょ。このお金は。嘘かな。

○中村副町長 基本的にはそうです。

○福田委員 そうでしょ。そうすると買ったものは強制で払っとるわけだ。取られるわけだ。そういう考えになるよ。道の駅だったらはっきりここでするだったらこういう事はありますよという事を掲示するとか、PRしないとダメじゃないかな。

○山本委員長 中村副町長。

○中村副町長 基本的には物品購入の中の代金というのは承知して売買するという

話なので、おっしゃられるようにそういった商品ですよという事を分かるような形の中で、バザールの中も含めて或いは場合によってはチラシ等にも事前にこういった商品もありますよという事も含めて、PR活動に努めていきたいと思えます。ありがとうございます。

○山本委員長　その他ございますでしょうか。久代副委員長。

○久代副委員長　青葉課長が来ておられるので、出荷者協議会の中でも検討されたと思えますけれども、改めて冬の戦略も大事だと思うのでお聞きしておきたいと思えます。どういうふうな状況なのか。

○山本委員長　青葉課長。

○青葉農林課長　先般ちょうど12月6日に出荷者協議会の会議をさせていただいております。その折にも冬場の商品の考え方という事でご説明もしながら、それから出荷者協議会の皆さんも何とか商品化をという動きは出ておりますので。ただし努力ではどうにもならない時期、または産品というものがありますので、私共はお願いをしておるのは先程浅田専門監も申し上げましたけれども、手工芸品のスペースを作っていこうと。現在展示して販売したいという声がありますし、それから今生鮮の商品を行っていただきますと分かるように、向かい合わせの2カ所要するに窓側と中心の方とスペースを設けております。ただ、ここがどんどん商品が無くなってきますとそこをちょっと整理してやはり見た目少量であれ盛りの良いというイメージもありますし、広い所に分散しておくというのはいかがなものかという意見も出ておりますので、MAさんの方をお願いをして商品の展示スペースを集中管理していただこうと。ものによって出た時にはやっぱり伸ばせる、ない時には縮めるというような仕組みもお願いをしたいと思っております。それで出来たスペースには手工芸品を並べていただいたり、それからそのスペースを使って手工芸品の対面販売というような事も取り組みたいと思っておりますし、それから寒くなりますので温かい商品を並べていくという努力をしたいという事も考えております。それからもう一つは、雪掘れ野菜のシリーズを是非作りたいということで、冬期間の非常に糖度の高い野菜というような物の販路開拓というものもやってみようと思っております。農家の方も非常に努力をしていただいておりますので、品数を出そうという意欲も高まってきておると感じておりますので、是非ともお願いをしながら商品を並べて見ていただけて買っていただく仕組みを作りたいと思っております。

○山本委員長　　よろしいですか。近藤委員。

○近藤委員　　これからの時期に向けての生鮮野菜が減るであろうということは、十分この春オープン前から予測をしてみんな指摘してきたわけですが、それに対するの取り組みとして新しいこの時期に出荷できるものの取り組みとか、そういう野菜の新しい品種の開発というか、栽培に心がけておられたような経緯はあるでしょうか。

○山本委員長　　青葉課長。

○青葉農林課長　　今のお話でございますが、やはり雪は降ると考えなくてははいけませんし、それから耐雪型のハウスをお持ちの農家さんには、当然ハウスでの栽培、特に軟弱ほうれんとか小松菜とか、ああいう部分については当初から出荷するというような声も聞いておりますから、そういう商品は今から春に向けて出てくると思っています。それで一つの戦略としてはやはり秋野菜をどんだけ出荷期間を長くするかという取り組みが今の雪掘れとか保存野菜というような販売戦略でございますし、もう一つは春を早くということがあるんですけども、なかなか春を早くは路地ではなかなか難しいわけでございますし、どうしても春先の一つ戦略として是非できないかと思っておりますのが、越冬した果菜類の菜花を是非商品化したいと考えております。それから春が早い品目というのがあります。アスパラそれからニラこのあたりも紹介しながらやっておるところでございますけれども、山菜まで何とか引っ張らないと正直なところ、路地にある品物がどれだけ商品化できるかというのは不安はあります。それと12月から3月までに成長して商品化できる品物というのはなかなか正直なところ困難だと思っております。路地においてはですね。

○山本委員長　　近藤委員。

○近藤委員　　町長もよくおっしゃられますけれども、雪掘れ野菜という事で日南町に冬も野菜があるということですが、それが家庭で消費するものと、それからこういう道の駅で販売に向けて消費するもの、要するに野菜は特に葉物野菜は雪の下にあわせたら外葉が腐ってしまうというのが実態でありますので、どの程度まできれいにさせるかわかりませんし、またそれに協力するという取り組むという姿勢はうかがいましたけれど、それが具体的な参加人数というか取り組まれるという人数の方がおられるのかということをちょっと教えてください。

○山本委員長　　青葉課長。

○青葉農林課長　　今ご提案申し上げて、雪掘れ野菜とはなんだというようなお話も

出荷者の中で聞くような状態ですので、要するに保存性を高めるということの一つ取り組みをしたいということで話はしておりますが、どなたにどの品目でというところまでの詰めをまだしておりませんので出荷者の中で取り組んでいただけるようなグループといいますか、クラブ活動みたいな形でちょっと試験的にやってみたいという人を募って行こうと考えております。

○山本委員長 近藤委員。

○近藤委員 その商品がおそらく規格があるものではない、今までと比べて。どういった形の規格であったり、その商品の制度を高めていかれるのか不安だし、品揃えもそうですけど、今から頼んで果たして寄るか寄らないかという不安もありますし、するに物の良いものをやっぱり揃えないといけないと思いますので、その辺の品質管理というか評価というかその辺をしっかりとしてもらいたいと思いますけどどうでしょうか。

○山本委員長 青葉課長。

○青葉農林課長 今まで家庭で食べるとなれば、どうしても食べれるところだけ食べるというのが私共の町の食習慣とっております。ただしこれをやはり商品とするには見栄えというものがあまして、それからそれに対する価値感をどうやって出していくか、ここらへんは大事なポイントだと思っておりますので、是非そこを保存の仕方を研究して商品化というところで農家の皆様方のご支援いただきたいと考えております。

○山本委員長 古都委員。

○古都委員 初めての冬ではないわけで、この計画ができた3年前からそのことは指摘をさせていただいたわけですし、今から頼むという話では間に合わんのだろうと思っています。例えば炭水化物系のサツマイモなんかだったら、倍以上作って掘り上げて農協の米倉庫の角でも借りて貯蔵しといて順次出していくとかいろんな方法はあったんだろうと思います。かぼちゃにしてもすぐ腐るかぼちゃと春まで持つ鉄兜ですかそういったものを栽培するとか、或いは先程言われましたアスパラガスですか、プランターに上げといて日南邑のガラス温室の中に早めに入れば、正月にでも目が出るわけですから、そういうような努力を積み重ねて品目を作られないと物が無い時には棚を小さくするというようなディスプレイをかわすというような話は、本来スタンスではない。出来ない事は出来ないですけれども、本当に雪を掘ってネギや白菜を

出すのであれば、そういった畑の除雪体制とかいろいろあると思います。いつかその質問致しますけど、施設野菜でゴロン太の数が出ていないですね。やはりゴロン太というストーブがどんどん出るようであれば、葉物は絶対日南町ではできない。ただ上手な人でほうれん草を正月出す方も市におられますけれど、それは相当な技術が高い方なので、そういった方の協力を仰ぐとかです。一つ一つされないと、おそらく机上論で或いは会議開いて説明しても今からでは間に合わんと思いますけども、それでもそういうものがないか掘り起こしをされるべきだと思います。ただないから棚を狭くするという話は経営にはならんと思いますけれども。そこら辺の覚悟はどうでしょうか。

○山本委員長 青葉課長。

○青葉農林課長 的確なるご指示だと思っています。農家の方にもそういう感覚で取り組んでいただける形が一番いいと思うんですけども、いかんせん本当に店先に並べるのは初めての経験になりますので、店を維持する、見栄えを超えた食味というものにその評価をしていただけるような形というのは、やはり消費者の皆さんと対面してみないとわからないところもあります。農家の皆さんに本当に冬期間といいますと、努力していただかないと出来ないという問題もございます。技術で対処できるものについては、先程の話のようにご指導を受けましたので、そういう方向性というのは当然考えて参りたいと思っております。それと店の作りをちょっと狭めてと言いましたけれども、これはやはり店としてそういう形でも維持をするためにはどういう方法があるかなと考えたことがございますので、ご理解をいただきたいと思っております。

○山本委員長 よろしいですか、その他ございますでしょうか。そうしますと道の駅のEVIにつきまして、全体を通しまして何か質問ご意見ございますでしょうか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

○山本委員長 それでは資料の方をよろしくお願いをいたします。続きまして、議会報告会、意見交換会にかかる検討課題の整理ということで行いたいと思っておりますが、この資料を見ていただければ項目もかなり少ない項目となっております。委員長副委員長で次回までに案を作らせていただいて、協議をしていただければと思っておりますが、よろしいでしょうか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

○山本委員長　　そういたしますと全体を通しまして何かご意見がございますか。ないようでしたら、本日の委員会はこれにて終了いたします。お疲れ様でした。

会議の経過を記載して、その相違ないことを証するため、ここに署名する。

平成　　年　　月　　日

委員長

副委員長